

第62回日本学生科学賞の結果等について

【結果】

○文部科学大臣賞〔チーム〕(全国2位)受賞

- ・大分上野丘高等学校 科学部
「疎水コロイドを用いた金属イオンの簡易測定法」

○特別賞「指導教諭賞」(全国で1名)受賞

- ・大分上野丘高等学校 実習教諭 高橋 慎一郎 氏



(参考)

- ・内閣総理大臣賞(全国1位) 明蓬館(東京) 石山翔雲
- ・文部科学大臣賞〔個人〕(全国2位) 県立府中(広島) 甲斐梨花

【賞の概要】

- ・主催 読売新聞社
- ・創設 昭和32年
- ・内容 優秀な科学者創出のために創設。中・高校生の理科公募としては最も伝統ある
- ・備考 1位～3位は、5月米国開催の「国際学生科学技術フェア(ISEF)」に代表派遣
- ・選考 各都道府県予選の最優秀3点をもとに選考。審査委員長は長濱嘉孝(自然科学研究機構基礎生物学研究所名誉教授)であり、審査員は大学教授等10名

【上野丘の研究の概要】

- ・これまでの研究を発展させ、鉄イオン濃度だけでなく、銅やアルミニウムイオン等の他の金属イオンの濃度を測定できる方法を開発した。
- ・溶液にろ紙を浸した際の2層の分離比が、イオン濃度に影響を受けることを突き止め、メカニズムを解明した。
- ・膨大な実験結果を裏付けに考察を積み上げており、混合溶液の濃度を容易に算定できる汎用性の高い画期的な手法の開発している。

【県内高校 入賞歴】

年度	賞名	順位	学校名	研究名	指導教員
1969年(第13回)	内閣総理大臣賞	1位	中津北	コップの摩擦音の研究	阿倍慎
1978年(第22回)	読売新聞社賞	6位	中津北	竹とんぼの研究	阿倍慎
2004年(第48回)	日本科学未来館賞	8位	中津北	モアレの研究	池田直
2010年(第54回)	旭化成賞	9位	大分上野丘	高分子 コロジオン膜の表と裏	高橋慎一郎
2013年(第57回)	内閣総理大臣賞	1位	大分上野丘	限界泳動距離の出現について	高橋慎一郎
2015年(第59回)	日本科学未来館賞	8位	大分豊府	回転風はなぜ上がるのか	池田直
2018年(第62回)	文部科学大臣賞	2位	大分上野丘	金属イオンの簡易測定法	高橋慎一郎

日本学生科学賞について

(1) 入賞

順位	賞名	副賞
1位	内閣総理大臣賞	50万円
2位	文部科学大臣賞(個人1、チーム1)	30万円
3位	環境大臣賞	30万円
4位	科学技術政策担当大臣賞	30万円
5位	全日本科学教育振興委員会賞	20万円
6位	読売新聞社賞	20万円
7位	科学技術振興機構賞	20万円
8位	日本科学未来館賞	20万円
9位	旭化成賞	20万円
10位	読売理工学院賞	20万円

(2) その他の賞

その他の賞	備考
入選1等	合計9点
入選2等	合計10点
入選3等	合計11点
学校賞	科学教育に熱心に取り組み、成果を上げている学校(1校、副賞:20万円)
指導教諭賞	長年、科学教育に貢献し、顕著な功績をおさめた教諭(1人、副賞:20万円)

(3) 本年度の審査員

審査員	役職
塚田 捷	東北大学 材料科学高等研究所 特任教授(物理学)
佐野雅己	東京大学大学院 理学系研究科教授(物理学)
下井 守	東京大学 名誉教授(化学)
村田 滋	東京大学大学院 総合文化研究科教授(化学)
高橋正征	東京大学 名誉教授(生態学)
和田正三	東京都立大学 名誉教授(生物学)
堀 良通	茨城大学 名誉教授(植物学)
町田武生	埼玉大学 名誉教授(動物学)
大路樹生	名古屋大学博物館 教授(古生物学)
野津憲治	東京大学 名誉教授(地学)
酒井 敏	京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授(地学)
西原明法	東京工業大学 名誉教授(情報・技術)
浅田 稔	大阪大学大学院 工学研究科 教授(ロボット学)
西成活裕	東京大学 先端技術センター 教授(数理物理学・工学)